

## 今こそ、全力プレーを！

Viewpoint  
直言

増村 雅尚 さん

崇城大総合教育センター准教授  
(健康スポーツ)

崇城大総合教育センターの増村雅尚准教授(38)＝健康スポーツ＝は、バレーボール男子Vプレミアリーグの強豪・堺プレイザーズ(大阪)で活躍した元一流選手。所属チームの廃部を経験するなど山あり谷ありのバレー人生だからこそ、学生に言いたいことがある。「今こそ、全力プレーを！」。

(聞き手・福井一基)

# 花開くこと信じて 本気を積み重ねろ

大学卒業後、リーグ優勝7回を誇る富士フィルムに入社、エースアタッカーとして活躍していました。ある日、練習の準備をしていたら、突然来た社長に言い渡されたんです。「あしたから、部として活動しない」と。業務見直しの一環ということでしたが、バレー人気の低迷やチーム成績も影響したんでしょう。あまりに突然で、頭が真っ白になりました。

忘れられない言葉をかけられたのは、そのころです。大学の恩師に「この前の全日本選手権が最後だと分かっていたら、もっと頑張ったのに」と愚痴をこぼす

と、「おまえは心構えが悪い。なぜ、普段から頑張れないんだ」と言われたんです。

そのとき、気付かされました。自分には甘えがあった。全力を出し切っていなかったんだって。「もっとやればよかった」と思ったときは、もう遅いんです。

バレーを続けるため迷うことなく富士フィルムを退社し、堺プレイザーズに移りました。こちらは1年更新の契約社員で、しかも外国人選手の控え。身分は不安定で、プレーできなければ食べていけない厳しい状況でした。それまでのエースという気持ちを完全に切り替え、どこ



「能力は出さなければ、持っていないのと同じ」と語る崇城大総合教育センターの増村雅尚准教授

のポジションでもプレーしてやると必死でした。エースとしては必要がなかったサーブやレシーブの練習にも取り組みました。

人間が成長するには、言われたことをやっているだけでは駄目。一つのプレーができなければ、なぜできないのか自分の頭で考えるんです。上からたたきつけていたスパイクも、世界を相手にすると思うように打てなくなる。「あっ、これじゃいけない」と、研究するんです。上の世界を見ないと、そんな学習もしいですよ。全体的にいい経験でした。

学生を見ていると、困難に直面したと

きに逃げ道をつくっているように感じます。例えば部活で壁にぶち当たると、バイトや遊びなどほかの選択肢を選んでしまう。レベルアップするために、そこを乗り越えようとしません。崇城大バレー部監督に就いて4年目ですが、当初と比べると、部員の目の色が随分変わってきたと思います。

最近の学生は、能力があるのに発揮しようとしません。その理由を聞くと「本気を出せば、いつかできる」。だったら今出せよ、と言いたい。能力は出さなかったら、持っていないのと同じ。「いつかできる」じゃ駄目なんです。評価されるのは今なんだ。今、本気を出せよ。

本気を出して、失敗したくないのかもしれない。できなかったときの自分に直面したくないのではないか。でも、学生時代の失敗なんて大したことじゃない。すぐにスーパーマンにはなれないけど、今できることを積み重ねれば、いつか花は開く。そう信じて、今を全力プレーで走りきってほしい。(談)

◇ますむら・まさなお 長崎県出身。筑波大体育専門学群卒。筑波大大学院人間総合科学研究科博士課程単位取得後退学。富士フィルム退社後、プレイザーズスポーツクラブ強化部入社。バレーボール日本代表(1997～2002年)としてワールドリーグに出場する。12年に崇城大助教、15年から現職。